

創作ダンスの熟練教師指導映像に対する学生の認知[†] —大学院「教材開発論」の授業を通して—

松本 奈緒*

秋田大学教育文化学部

本研究の目的は創作ダンスの熟練教師指導映像に対する大学院生の認知について明らかにすることである。研究対象者は3名の大学院生であり、既に中学校、高等学校の保健体育教諭と小学校教諭の免許を持っているが学部でのダンス経験はない者であった。30分の長さの指導映像2種を観察後、対象者は気づいた点を自由記述し、KJ法にてまとめた。本研究によって、熟練者のダンス指導の映像を見ることにより、大学院生は明確な目標の提示、教材の工夫、様々な学習者への関わり方等の教育学的に成功裏の授業構造について、また、表現につながる手段、多様な動き、認め合い評価等のダンスの特性に合った具体的な方法の2つの側面で気づくことが確認できた。従って、それまでのダンス経験がほとんどない受講者であっても、熟練者のダンス指導に触れることによってダンスの指導の工夫や教材、場の設定、学習過程、声かけ等様々な事項が学習できたことが明らかとなった。

キーワード：学習者の認知、創作ダンス、教師教育、大学院教育、熟練者の指導

1. 諸言

新任の教師と熟練の教師の指導の質が異なること、これは、教育の実践現場では暗黙の了解として認められてきたことであろう。新任教師よりも熟練教師の方が学習者の特徴やつまづきを把握し、柔軟に学習の流れを作り出すことが可能であろう。研究の分野でも、学習指導に関する教師の知識を、単なる理論的知識としてではなく、教育的な実践の場の文脈の中での認識や意思決定、実践的知識（practical knowledge）として捉えようとする試みが教師のエクスパタイズ（熟達）研究として行われている（鈴木理，2000：山口，2010）。つまり、ここで指摘されているのは教育の現場に対応するためには単なる教育学的知識を持っているだけでは十分でなく、刻々と変わっていく教育的状況の中で常に問題解決を行いその場に見合った意思決定と実践的対処を行

える能力こそが教師の能力といえるということである（Schon，1982：佐藤ら，1990：岡出，1997）。

実際にこの研究に関する先行研究の中で、教師の思考過程や意思決定、初任教师と熟練教師の違いや教員免許取得希望学生と熟練教師の違いについての研究がなされてきた。例えば、佐藤ら（1990）はVTR再生法に改良を加えたオンライン—オフラインシステムを用い、初任教师に比べ熟練教師は授業過程の即興的思考が活発である、授業の状況に積極的、感性的、熟考的に関わる、多様な視点から複合的に授業に接近する、文脈的に思考する、発見的反省的な問題の枠組みを絶えず構成している、の特徴があることを明らかにした。舞踊教育分野では山崎ら（2014）はダンス指導の熟練者と未熟練者を4名ずつを対象にした指導実験を行いインタビューの内容を分析し比較検討することから、熟練者は未熟練者に比べ課題をただ真似する動きではなく質感や変化等の特徴を捉えた動きを引き出そうとした、動きの質感や大きさ等の視点で動きを強化する働きかけがあったという結果を明らかにした。以上を踏まえ、熟練者の指導とは経験に裏付けられた一定の特徴を

2016年1月8日受理

[†]Master students' cognition of teaching concepts and methods after watching experimental creative dance teaching videos

*Naho MATSUMOTO, Faculty of Education and Human Studies, Akita University

持つものであり、熟練者の指導から学ぶことは重要性があるといえるであろう。

さらに、ダンス領域の指導における教師側の経験や問題が、ダンス指導の実施を妨げているという報告もある（松本富子ら、1992、1993：安藤・中村、2004：中村・浦井、2005：松本奈緒・寺田、2013）。ここで指摘されているのは、指導者のダンスの経験の不足や実技の能力不足、教師のダンスに関する知識不足、指導法や具体例の知識不足であった（中村・浦井、2005：松本奈緒・寺田、2013）。このことから、教師教育の段階でも実際の授業の様子を観察し、その具体的な教材や指導法、学習の進め方、学習者への具体的な対応を学ぶことの重要性が指摘できる。ダンスの映像に関して教員養成課程の学生がどのように認識するのかという問題に関して、いくつかの研究がなされてきた（吉田・川口、1994：高橋、1995：島内ら、1996：中神・川口、2010）。しかし、これらは学習者の作品に対する鑑賞の研究であり、熟練者の授業に関する研究ではない。従って、教員養成段階にある学生が指導者のダンス指導の映像を見て何を学ぶのか研究する意味が十分あるといえるであろう。

そこで、大学院「教材開発論」の授業において、受講者が熟練教師の指導する授業の映像を観察し、指導や授業展開について気づいた点を記述させる活動を行うこととした。本研究ではその活動において受講者がどんな点に気づいたのか、受講者の認知について明らかにすることを目的とする。

2. 方法

2-1. 研究方法と手続き

本研究では、大学院教育研究科修士課程の授業「教材開発論」の授業において、創作ダンスを熟練教師が指導する映像を視聴後、指導や授業展開について受講者が気づいた点を付箋に記入しKJ法を用いて分類した。KJ法とは、川喜田二郎がデータをまとめるために考案した方法であり、収集したデータをカードにまとめ、内容毎に分類・グループ化し、その分類群にラベルをつけて概念図化する方法である。本研究では、映像視聴後50分間かけて研究対象者である大学院生が意見を出し、それを参加者の合意の上概念化した。本研究者は提出された意見を参加者がグループ化し、それに適切なラベルをつけるよう促すことから、議論を活発化し明確に意見を整

理できるよう活動を促進させるよう関わった。また、それに加え、より明確な結論へとつながられるよう、事後、KJ法で明らかになった概念を研究者がさらにグループ化し整理した。

視聴したダンス指導の映像については、「明日からトライ！ダンスの授業」付録のDVDより、課題学習の「しんぶんし」及び「集まるーとび散る」を用いた。これは、各々13分程度の指導映像であり、中学校段階の指導を想定した授業展開例を長年附属中学校に勤務した（指導経験10年以上）、ダンス領域の指導に関して全国的な場でリーダーシップをとり、著書も数多くある熟練教師が指導したものであった。なお、視聴した授業の指導案については資料1、2のとおりである。

2-2. 研究対象者

研究対象者は「教材開発論」受講生である男子大学院生3名であり、秋田大学の教育文化学部学校教育課程保健体育専攻を卒業し、すでに保健体育科教諭と小学校教諭の免許を持っている学生であった。学部在籍時のダンス履修経験はなく、ハンドボール（2名）や柔道（1名）の専門競技の経験がある。したがって研究対象者の特徴として、体育や教師教育についての知識や経験があるが、ダンスについての知識や経験のほとんどない学生であるといえる。

3. 結果

分析の結果、教材・アイディアの良さ、声かけ、ステップ下準備、多様な動き、考える、認め合い・評価、体全体の表現、今日の目標の確認の概念が学生によるKJ法により明らかとなった（図1参照）。また、これら概念をさらに整理した結果、今日の目標を明確な目標の提示に、教材・アイディアの良さを教材の工夫に、表現につながる手段、ステップ・下準備、多様な動き、体全体の表現、考える、認め合い・評価を特性に合った手だてに、声かけを多様な学習者への関わりにとさらに研究者が整理し図示した（図2参照）。

以下、各概念について説明する。明確な目標の提示の大概念の中の今日の目標の確認では、「集まるーとび散るの課題となるひと流れの動きを言葉を使って確認して頭でイメージしやすくしてる」の意見が出た。ここでは、課題学習の課題である、集まるーとび散るを授業のはじめに板書で確認をするこ

資料1 課題学習「しんぶんし」時案

	学習活動
導入	1. 学習カードを読み、先週の振り返りをする 2. ダンスウォームアップ (1)座ったままストレッチ (2)立ち上がってストレッチ (3)しんぶんしを離してーキャッチ ・1人で→2人組で ・その場で→走って投げ上げ交換
展開	3. 課題を動く (1)先生の新聞紙の通りに動く (2)ひと流れを動く ・体の隅々まで伸ばすひと流れ ・体を大きく使うひと流れ（2回くらい） 4. 2人組でお互いを動かす (1)2人組になりジャンケンする (2)しんぶんし役と先生役で動かしあう ・勝ち（しんぶんし役）、負け（先生役） ・交代 5. 2人が気に入った動きをつなげてひと流れの動きにする (1)ダンスキーワードとひと流れづくりのルールを確認する (2)2人組でのひと流れづくり (3)リハーサルを行う (4)ラスト3分練習
まとめ	6. 見せ合い (1)見せ合いのルール確認 (2)見せ合うポイントの確認 (3)拍手の練習 (4)見せ合う 1 グループ 2 グループ 7. まとめ・評価

(全国ダンス・表現運動授業研究会, 2011, p.10-13より抜粋)

とで、明確に目標を提示し、それによって学習者が明確に意識できることについて受講者は認識したことが明らかとなった。

教材の工夫の大概概念の中の教材・アイデアの良さでは、「ウォームアップからひと流れの動きが入れられている『集まるーとび散る』」,「一つの新聞から様々な動き: ストレッチに活用したり不規則な動きを表現できる」,「ブレイン・ストーミング法→考えをとにかく出すには効果的」の意見が出た。ここではウォームアップが学習の中心となる教材とつ

資料2 課題学習「集まるーとび散る」時案

	学習活動
導入	1. ダンスウォームアップ ・ウォームアップ 「グルグルジャングル」
展開	2. 課題を動く (1)板書を見ながらひと流れを確認 ・声に出しながら、動く伴奏をするように先生と一緒に読んでみる ・立ち上がってその場でとび散るの練習。 ・短い助走と転がった後のピタがポイント、極限を引き出すように2回くらい行う (2)6人グループで ・まずひと流れを軽く動く、集まってひと流れを動いてみる ・集まる ・外向きに短い助走でジャンプ ・すぐに集まる ・外向きに遠くまでダッシュしてジャンプ (3)先生のイメージ例で動く ・イメージ例「火山の大爆発」 ・時間のゆとりがあれば、もう1つ、やわらかなイメージの「落ち葉が舞い散る」などに挑戦してもよい (4)自分の思いついたイメージで動く ・6人ずつ集まったら座り、先生のほうを向き、説明を聞く ・自分のイメージを動く 3. イメージを出し合う ・A4の紙に書き出していく ・ホワイトボードに貼り、ざっと見る 4. グループで1つの題名をつけて練習する 5. リハーサル ・リハーサルは、ダイナミックに大きく踊る。
まとめ	6. 見せ合い ・3グループくらいずつ発表 ・題名を先生がアナウンスし一度にスタートする ・時間によって2グループずつの発表なども 7. 授業の振り返り・まとめ

(全国ダンス・表現運動授業研究会, 2011, p.18-21より抜粋)

ながるように展開されていること、新聞紙を用いての動きを拡大できること、アイデアを出すためのブレイン・ストーミング等、無理なく創作活動に取り組んだり、創作の為のアイデアを出す為の教材を効果的に工夫について、受講者は認識したことが明らかとなった。

特性に合った手立ての大概概念の中の表現につな



図1 KJ法による熟練者のダンス指導に対する学生の認知

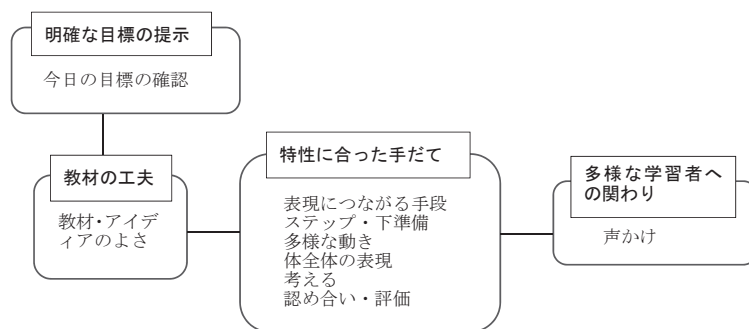


図2 熟練者のダンス指導に対する学生の認知

る手段では、「2人組、1人が新聞紙、もう1人が体で表現する→体で何かを表現させるための手段」、「スキップ、ぐるぐる、サイドステップをやることで、ひと流れの動きにつながる動きを体験できる」の意見が出た。ここでは新聞紙という教材を用い2人組で1人がもうひとりを動かすこと、様々なステップをあらかじめ行うことがその後の表現活動につながる効果的な手段となっていると受講者が認知したことが明らかとなった。ステップ・下準備では、「新聞紙の気持ちになって、自分で感じとって動きに表す（表現）先生先導で→活動の中核へのステップ、自分なりに感じて表現できる良い機会」の意見が出た。ここでは、教師主導の新聞紙の真似をする活動が自分自身で創作させる前の準備になると受講生が認知したことが明らかとなった。多様な動きでは、「ダイナミック、メリハリをつけることで、表現がいきいきとしたものになる」、「『ぎゅっと』『パッと』『すばやく』『遠くに』動きに緩急や強弱のリズムをつけることができる」、「色々な固まり方を自由にやらせることで様々な表現を身につけさせていく」の意見が出た。ここでは、表現を多様にするためのキーワードの効果、動きに緩急や強弱をつけるための言葉がけ、課題からより自由で多様な表現へと広げていくことについて受講生が認知したことが明らかとなった。体全体の表現では、「大きく動くことを強調→体全体を使って表現させる」の意見が出た。ここでは、大きく動きを強調し体全体を使って動くことを指導者が学習者に意識させていたことを受講者が認知したことが明らかとなった。考えるでは、「今までやった動きを確認させて、ひと流れの動きを2人組で好きにやらせる→自分達で考えて表現することにつながる」、「自分達の『ひと流れ』を考えてみ

る（これまでの動きの中から2・3つ選んで）ジャンプは必須→表現につながる“考える”大切さ」、「自分でイメージを決めて動くことで、自分の考えを表現できるようにする」の意見が出た。ここでは、自分なりのひとながれの動きを考える、今までの動きに自分のアイデアによる動きを付加しつくる、自分の考えを表現するための指導過程や場の設定がなされていることを受講者が認知したことが明らかとなった。認め合い・評価では、「ペアのグループで発表→他のグループから感想→他者を評価すること」、「皆が考えた項目を黒板へ貼って皆へ見せる→互いの考えを認め合う場の確保」の意見が出た。ここでは、ダンス作品のペアグループの見せ合い活動やグループで出したダンスの題材を公開しアイデアを分かち合うことや等皆で意見を認め合う場を教師が設定したことについて、受講者が認知したことが明らかとなった。

教師の子どもへの関わりの大概念の中の声かけでは、「先生がどんな飛び方があるのかを例示して生徒もなにか表現して飛ぶように意識づけている」、「グループ活動で先生のアドバイスで、動きの‘めりはり’や‘ダイナミック’ということを気づかせる」、「『水がとび散るのをもっとダイナミックに』『緩急をつけては？』→声かけにより更なる作品を更に考える機会の提供」、「声かけ：『あと20cmとべる気がする』動きのダイナミックさの強調、目標の『さらに遠くにとび散る』につながる動き」の意見が出た。ここでは、表現を深めるための教師の行動や言葉がけ、ダンス領域の創作のキーワードに気付かせるための言葉がけ、さらに動きを強調し次への目標を明確にするための言葉がけ等表現を深めるための多様な学習者への関わりがあることを受講者が認知

したことが明らかとなった。

4. 考察

ダンス領域の指導において、熟練教師の指導には様々な工夫がある。本授業における大学院生は熟練者のダンス指導の映像を見ることで様々な教材や指導の工夫について認識し、学ぶことができた。はじめに、受講者は板書で課題学習のテーマを提示することで明確な目標の提示をしている点に着目した。明確な目標の提示は、授業を行う際に重要なことであると模擬授業や教育実習を通じた実践的な指導の際により授業を行う際の必要事項であるとされ、すでに学部段階での教師養成課程を終え教員免許を取得している受講生は課題学習の課題が明確であることに着目し、それを明確な課題提示と受け取ったと推察できる。次に教材の工夫については、これも体育科教育分野において、学習者の実態に合った分かりやすい指導をする際の重要な要素であるが、ウォームアップから学習の中心となる課題の創作活動への無理のない流れや段階を追った指導方法を工夫した教材であること、ブレイン・ストーミングという方法で創作につながる動きのアイデアを出す手法を取り入れていくことを受講者は効果的な教材の工夫を行っていると感じ取った。

次に、創作ダンスについては、段階を踏まずただグループでの創作時間を確保しただけのダンスの授業は学習者の創作活動を促進せず不成功に終わる為、制限された課題の中で自由即興を行う活動から段階的に独立した創作活動へと無理なく移行できるように工夫しているが、これについて受講者は気づき、肯定的に受け取ったことが分かった。さらに、受講者はダンスの特性に合った手だてとして、表現につながる手段、ステップ・下準備、多様な動き、体全体の表現、考える、認め合い・評価といった多様な視点から捉え、気づくことができた。ここでも受講者はダンス領域の中心の課題の創作へと段階的に移行する手段やステップ等の指導過程について効果的であると受け取った。また、表現をより際立たせ、幅広い豊かなものとするための多様な動きや体全体の表現を意識した指導の行い方についても受講者は気づくことができた。これらは、ダンス特有の技能的指導であり、学習者の動きやアイデアを尊重しながらも動きのダイナミクスや多様性、質を高めていくための指導である。このことから受講者は

ダンスの特性に合った技能の指導について認知し映像を見ることから学習できたといえる。また、創作や創造的活動特有の考える活動について、ただ指定された動きを動くだけでなく学習者の意見やアイデアを元に考える時間を随所確保している所に気づくことができた。これに関しては、スポーツの専門的経験のある受講者がただ運動を行うだけでなく考える活動がダンスの授業にはあるという点を新鮮に捉え、ダンス特有の活動であると受けとったことが推察できる。さらに、受講者はダンス作品のペアグループでの発表やブレイン・ストーミングで出たアイデアを板書に貼って紹介する活動に関し、お互いの意見を認め合い、評価する活動であると捉えた。ダンス領域では創作活動に伴う、様々な見合い活動、意見の交換を重視するが、それに関して受講者は着目しお互いを認め合う場として受け取ったことが明らかとなった。最後に、多様な学習者への関わりでは、教師が学習者に多様な声かけを行っていたことを受講者は気づくことができた。特に動きを深め、強調するための言葉がけを具体的な例と共に学習者は学習できた。学習者の自主的な創作活動が学習の主体となるダンスの学習では、学習者の活動を尊重し、主に言葉がけによって学習者に関わる。従って学習指導における言葉がけの重要性は非常に高く、指導者は意識して言葉がけを行っているのだが、受講者はこの重要性の高い事項にも気づくことができた。

これら受講者の認知を総括すると明確な目標の提示や教材の工夫等、教育学的に成功裏な構造を持った指導とダンス領域特有の手だてや指導方法、関わり方の2つの側面に分類できるであろう。これらの結果にいたった原因について考察すると、今回研究対象者となった受講生は教員養成課程を卒業しすでに教育学的な基礎知識を持っていた為、教育学的な授業の流れや構造について着目しやすかったと推察できる。また、今回視聴の題材とした課題学習は、ダンスの学習を円滑にするための段階的指導を行うための総合的工夫がなされているが、これを創案した松本千代栄¹⁾氏は交流のあった竹之下久蔵¹⁾氏のグループ学習の研究グループに参加しながらダンスの教材研究を模索した(鈴木明哲, 2012, p.123)。この研究グループでの教材研究の過程で他の体育領域と共通の小集団に着目した自主的活動のための工夫を模索し、教育学的な1時間の流れについての何

かしら着想を得たことが推察される。創作ダンスの課題学習の学習はダンスの学習に役立つだけでなく、課題を発展させ1時間の中で創作及び鑑賞及び評価までを行う、課題提示－活動－評価（鑑賞）という一連の構造を持っており、これは教育学的な構造と共通する。その点に受講生に気づいたと推察。さらに、これまでダンスの授業や指導方法について学ぶ機会のなかった受講生はダンス特有の創作活動、考える活動、学習者の動きをさらに多様に豊かにしていく声かけ、動きやアイデアの見せ合い活動等が他の体育活動にはない特有の指導方法や関わり方であると受け取った為、熟練教師の成功裏な指導から多くの点を認知できたと考えられる。

5. 結語

本研究によって、大学院生は熟練者のダンス指導の映像を見ることにより、教育学的に成功裏に構造化された授業構造について（目標の提示、教材の工夫、様々な学習者への関わり方等）とダンスの特性に合った具体的な方法の2つの側面で気づくことが確認できた。従ってそれまでのダンス経験がほとんどない受講者であっても、熟練者のダンス指導に触れることによってダンスの指導の工夫や教材、場の設定、学習過程、声かけ等様々な事項が学習できたことが明らかとなった。

本研究の限界として、対象者が受講した3名のみであること、分類の方法が受講者の行ったものに研究者の分類を加えたものであり一貫性にかけることがある。これら研究の限界を踏まえ、ダンス領域における教師教育の成果を明確にしさらに充実させるためにも、今後、さらに同種の研究が行われることを期待したい。

脚注

注1) 松本千代栄（1920－）は舞踊教育者であり、創作ダンス、課題学習の創案者。昭和24年学校体育指導要綱、学習指導要領体育編の作成に参加。竹之下休蔵（1909－1988）は体育学者であり、昭和24年学校体育指導要綱、学習指導要領体育編の作成に参加。全国体育学習研究協議会の設立者であり、戦後学校体育のリーダー。社会とスポーツとの関わりから新しい体育像を提案し、グループ学習を提案した。松本千代栄は1940年代初頭の奈良女子高

等師範学校附属国民学校（小学校）勤務の際に、同学校の自由教育の影響から当時のダンス領域で主流であった遊戯では十分でないと考え子どもの自主的な創造活動を中心としたダンスを創案し実施した（鈴木明哲、p.116-118）。戦後、1940年代後半、同学校にたびたび視察に訪れた竹之下休蔵の声掛けでグループ学習の研究会に参加、昭和24年学校体育指導要綱の編纂委員となった（鈴木明哲、p.123-124）。

参考引用文献

- 秋田喜代美・佐藤 学（1991）教師の授業に関する実践的知識の成長：熟練教師と初任教師の比較検討。発達心理学研究, 2(2)：89-98.
- 安藤 幸・中村久子（2004）表現運動指導の現状と問題点－四国地区小学校教員を対象として－。鳴門教育大学研究紀要生活健康編, 9, pp.1-13.
- 早川由紀・大友 智（2010）大学院生の体育指導における意思決定に関する研究：体育授業場面と知識領域の分析を通して。群馬大学教育実践研究, 27：107-117.
- 北尾倫彦・速水敏彦（1985）教授技能の分析的研究－実習生と熟練教師を比較して－。大阪教育大学紀要第V部門, 34(2)：171-178.
- 松本富子・高橋和子・茅野理子・細川江利子・佐分利育代・広兼志保・畑野裕子（1993）ダンス指導の現状と充実への課題－全国小学校・中学校・高校現職教員への意識調査から－。アジア国際舞踊会議発表論文集, August 2-6, pp.74-84.
- 松本富子・松本恵美（1992）表現運動における課題と方策－群馬県小学校の現状と教育実践を促進させる要因の検討から－。群馬大学教育実践研究, 9, pp.125-147.
- 松本奈緒（2010）ダンス領域を教えるうえで、授業のポイントとは何か－中学校でのダンス必修化によせて－。保健体育ジャーナル, 91, pp.1-4, 学研教育みらい.
- 松本奈緒・寺田 潤（2013）男女必修化時代の中学校ダンスの実施の現状と指導者の問題意識－秋田県保健体育教諭の研修レポートを参考として－。秋田大学教育文化学部研究紀要, 教育科学部門, 68(4)：25-34.
- 松田岩男・宇土正彦編著（1988）学校体育用語辞典,

- 大修館書店：東京，p.141, 233.
- 中神 惟・川口千代（2010）舞踊における創作者の表現内容と鑑賞者の享受内容に関する研究：Contemporary Dance 作品と鑑賞者のイメージの比較を中心に，京都女子大学発達教育学部紀要，6：135-145.
- 中井隆司・岡沢祥訓（1999）体育授業における教師の知識と意思決定に関する研究－再生刺激法による体育授業研究の試み－，スポーツ教育学研究，35(1)：87-100.
- 中村恭子・浦井孝夫（2005）中学校における体育の種目選択制に関する研究－ダンス領域を中心とした現状と問題点－，順天堂大学スポーツ健康科学研究，9，pp.52-56.
- 岡出美則（1997）体育教師のエキスパダイズ研究の動向，体育科教育，45(9)：24-26.
- Schon, D. A., 1982, The Reflective Practitioner: How Professionals think in action. Basic books: NY, pp.21-69.
- 鈴木明哲（2012）戦中戦後の学校体育実践資料：松本千代栄氏に聞く，東京学芸大学紀要，芸術・スポーツ科学系，64：113-125.
- 鈴木直樹他（2013）体育教師の観察時における意思決定能力の成長－教員養成課程の学生と熟練教師の比較を通して－，東京学芸大学紀要，芸術・スポーツ科学系，65：137-146.
- 鈴木 理（2000）アメリカにおける教師のエキスパダイズ研究の動向－1980年代後半以降を中心に，工学院大学共通課程研究論，37(2)：117-128.
- 佐藤 学・岩川直樹・秋田喜代美（1990）教師の実践的思考様式に関する研究(1)－熟練教師と初任教師のモニタリングの比較を中心に－，東京大学教育学部紀要，30：177-198.
- 佐藤 学・秋田喜代美・岩川直樹・吉村敏之（1991）教師の実践的な思考形式に関する研究(2)－思考過程の質的検討を中心に－，東京大学教育学部紀要，31：183-200.
- 島内敏子・北野啓子・石田五月（1996）舞踊作品の鑑賞技能の実態的把握，舞踊學，19：18.
- 高橋るみ子（1995）VTR「全日本高校・大学ダンスフェスティバル受賞作品集」の教材的価値，舞踊學，17：64-65.
- 山口考治（2010）体育授業研究からみた教師の実践的知識と思考に関する研究の変遷と今後の展望，佛教大学教育学部学会紀要，9：61-72.
- 山崎朱音・村田芳子・朴京 眞（2014）創作ダンスの指導における指導言語の意味と動きをみる観点：教材「新聞紙を使った表現」を対象に，体育学研究，59：203-226.
- 吉田裕子・川口千代（1994）ビデオ鑑賞によるダンス学習の効果，日本体育学会大会号，49：614
- 全国ダンス・表現運動授業研究会編（2011）明日からトライ！ダンスの授業，大修館書店：東京，159p.

Summary

The purpose of this study was to investigate Master students' cognition of teaching concepts and methods after watching experimental creative dance teaching videos. The study subjects were three Master students with PE teacher license and elementary school teacher license but with no prior experience taking dance class at university. After watching two thirteen minutes creative dance teaching video which learn themes 'newspaper' and 'gather and spread', master students wrote points they notice and made diagram through KJ method. After that researcher add making group and construction bigger theme for clearer understating. As outcome four big theme and nine small theme emerged. As big theme, clear goal presentation, subject matter device, teaching means and process suits a specific characteristic for creative dance, variety feedbacks for students emerged. This study shows through watching experimental master student learned educational successful construction and particular teaching means and teaching process, feedback for creative dance.

Key Words : student cognition, creative dance, teacher education, experimental teacher's teaching

(Received January 8, 2016)